



○コートに響け、みんなの「わくわく」！

6月13日から15日に開催された中学校総合体育大会バレーボール大会。私は役員として市内各会場を駆け回り、生徒たちの熱い戦いを観戦してきました。県大会予選も兼ねたこの大会、1点に懸ける生徒たちの必死な姿に、胸が熱くなりっぱなしの3日間でした。

私は小学校籍の教員です。普通なら中学校の市総体でここまでどっぷり浸かることはありません。小中併設校の校長だからこそ味わえる、まさに「美味しい特権」です。しかもバレーボールといえば、私が学級担任時代に10数年間、熱血(?)指導に明け暮れた思い出の競技。会場に足を踏み入れた瞬間から、実は生徒以上に私の心拍数が上がり、終始「わくわく」が止まりませんでした。(危うく監督気取りでコートに指示を出しそうになったのは秘密です)。

さて、この強烈な「わくわく」を通して、改めて強く思ったことがあります。それは、「学校も、誰もがわくわくできる場所でなくてはならない」ということです。

前回のつぶやきで「目標の立て方」について記載しました。高すぎる壁に圧倒されるのではなく、数値を入れて少し手を伸ばせば届くステップを設定することが大切だ、という内容です。

これ、実は「わくわく」の正体でもあります。「これをクリアしたら、次はどうなるだろう?」「ちょっと大変そうだけど、やってみたい!」。そんなふうに、自分で立てた目標に向かって一步を踏み出す瞬間に、人の心は一番わくわくするのです。

これは子どもたちに限った話ではありません。毎日教壇に立つ教職員にとっても、日々の中に「小さな挑戦とわくわく」が必要です。先生が楽しそうにしている学校は、間違いなく子どもたちにとっても魅力的な場所になります。

登校するのが楽しみな児童生徒、出勤するのが待ち遠しい教職員。そんな、みんなの「わくわく」が連鎖する学校づくりを、地域の皆様と一緒に目指していきたいと思います。

まずは私自身の「総体ロス」を早く克服することから始めます！

